

所属・資格 史学科・教授

申請者氏名 坂口 明

| | | |
|---|--|---|
| 研究課題 | | ローマ帝国の社会 |
| 報告の概要 | 研究目的 および 研究概要 | ローマ帝国の社会を総合的にとらえることを試みる。 具体的には、オスティアやポンペイ、ヘルクラネウムといったローマ都市の市民（商人や職人）の社会生活・経済生活の実態に迫るとともに、農場の経営、そこで働いていた人々の実態を明らかにする。 そして、これらをもとにして、帝国の社会のありかたについて、身分構造をも含めて考察する。 |
| | 研究の結果 | オスティア、ポンペイ、ヘルクラネウムの現地調査では、おもに組合のスコラ（集会所、本部）とタベルナ（店舗）を調査し、画像データなどを得ることができた。 また、在ローマの諸研究機関（British School at Rome, American Academy in Rome）で、ローマの社会・経済に関する文献を調査・収集した。 これらの資料を分析する作業では、ポンペイの組合についての研究をまとめることができた。しかし、タベルナについては、昨年フランス人による大きな研究が出て、私が計画していたテーマをかなり徹底的にカバーしており、研究計画の立て直しを余儀なくされた。今のところ、独立連棟型のタベルナに注目して、これらが一定の時期（2世紀）に行政主導のもとに建てられたのではないかという見通しを立てている。このことは、この時期の都市社会のありかた、特殊にはオスティアの発展の歴史と深い関係を持つものであると思われる。 |
| | 研究の考察・反省 | 上に述べたように、当初取り組むことを計画していた諸問題のうち、都市社会については一定の成果と見通しを得ることができたが、農村社会についてはあまり深めることができなかった。帝国社会全体のありかた、身分構造（奴隷制の問題も含めて）についても、検討はすすめているがはっきりした画像を描くには至らなかった。これらについては、今後の課題として継続して研究を進めていく予定である。 |
| 研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 | 研究成果物 「ポンペイの組合」『史叢』99、2018（日本大学史学会） | ※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 |
| 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者 | | |